

3 厳しい自然環境を克服してきた稲作

○農作物の栽培に不向きな土地

石狩平野:かつては農業に不向きな土地

→冬の気温が -10°C 以下になることもあり、()が広がる

※()とは、沼地などに積もった枯れた植物が、低温のため十分に分解されず長い年月を経て炭化した泥炭が堆積した湿地のこと

○農地開発から始まった稲作への挑戦

北海道の開拓:明治時代の初め、()を札幌に設置

→()をはじめ、全国各地から移住する人々が集められる

泥炭地の水はけをよくするため、排水路を掘る
 作物を育てるのに適した土地をほかの場所から運ぶ
 蛇行した石狩川をまっすぐにする工事で、洪水対策も行う

→長い年月をかけて農地となり、現在、石狩平野は日本有数の米どころに成長

○「寒さに強い米」から「おいしい米」へ

北海道:春が遅く秋が早いことから、稲作が難しい地域

→品種改良を重ね、稲作が可能な範囲が北へと広がる

例) 銘柄米の栽培:「ゆめぴりか」や「ななつぼし」など

1970年代以降の()

→転作を行う農家が増え、田の面積が減少

例) 石狩平野:小麦やそば、大豆などの畑作物の栽培

＜北海道の農地面積の変化＞

	1904年	1930年	1970年	2015年
	33万ha	84万ha	89万ha	105ha
田	5.3%	24.1%	31.1%	20.0%
畑	94.7	75.9	68.3	79.8
その他	0	0	0.6	0.2

※畑には牧草地を含む